



東京医科歯科大学医学部附属病院
「みんなの健康を育む病院だより」

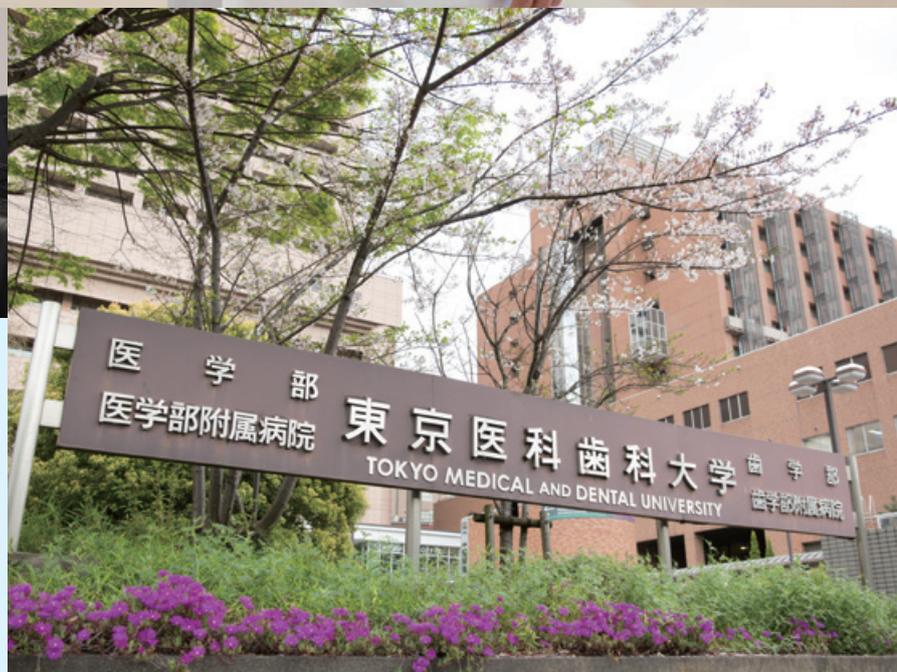


オアシス



INDEX

- 2 大川淳病院長のごあいさつ
- 3 木原前病院長×大川新病院長対談
- 5 脳卒中センターについて
- 6 新任科(部)長・センター長のご紹介
- 8 梅いち輪募金・がんレクチャー・奨学寄附金・基金・セカンドオピニオン外来・献体



病める人、苦しみを抱える人が、 笑顔になれる「心のオアシス」を築くために…

大川 淳 整形外科・病院長 (平成28年4月～)
Atsushi Okawa

初めまして。4月より、病院長を拝命いたしました大川淳です。専門は整形外科で脊椎脊髄外科、つまり首から腰までの背骨の病気の治療や研究を続けてまいりました。

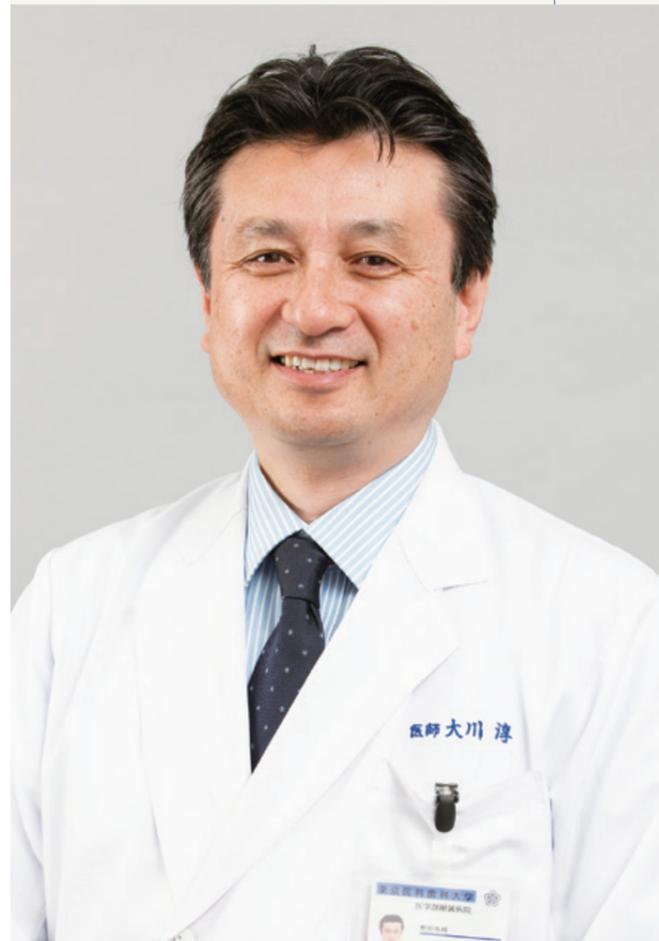
前任の木原和徳病院長が取り組んできた患者さんサービスや病院経営を引き継ぎ、ご利用される皆様にとって「心のオアシス」になるような病院を目指します。

学生時代から20年以上も本院を見つめ続けておりますが、堅実で真摯、そして高い技術力を持つ医師やスタッフが多く、それをよく理解してファンになってくださる患者さんもたくさんご利用されていることが、何よりも大切な本院の宝だと考えております。

病院長としての私一人の力は微力ですが、まじめで誠実な心が集まって力を合わせれば、難しい病気に苦しむ患者さんを支え、笑顔を取り戻すこともできます。

そして患者さんの笑顔は、本院スタッフの自信とプライドを育て、「もっと高度な医療技術のために…」 「もっと良質なサービスのために…」 という励みになります。

病める人、苦しみを抱える人が、笑顔になれる「心のオアシス」となるように、病院長として努めてまいりますので、よろしくお願いたします。



大川 淳 (おおかわ・あつし)

1982年東京医科歯科大学医学部卒業。九段坂病院、諏訪中央病院などで勤務後、2001年より東京医科歯科大学医学部整形外科講師。2011年より教授に就任。2016年4月より病院長。専門は脊椎脊髄外科。難易度の高い脊椎疾患で豊富な治療実績を持つ。

大川
新病院長



DIRECTOR Director 病院長対談

平成28年3月、木原和徳病院長が2年間の病院長としての任期を満了し、定年退職。4月から大川淳病院長にバトンタッチしました。そこでお二人に、これからの病院運営に関する取り組みについてお話を聞きました。

木原 「患者さんサービスを常に第1に考えていました」

大川 「病院の雰囲気明るく、やさしくなりました」

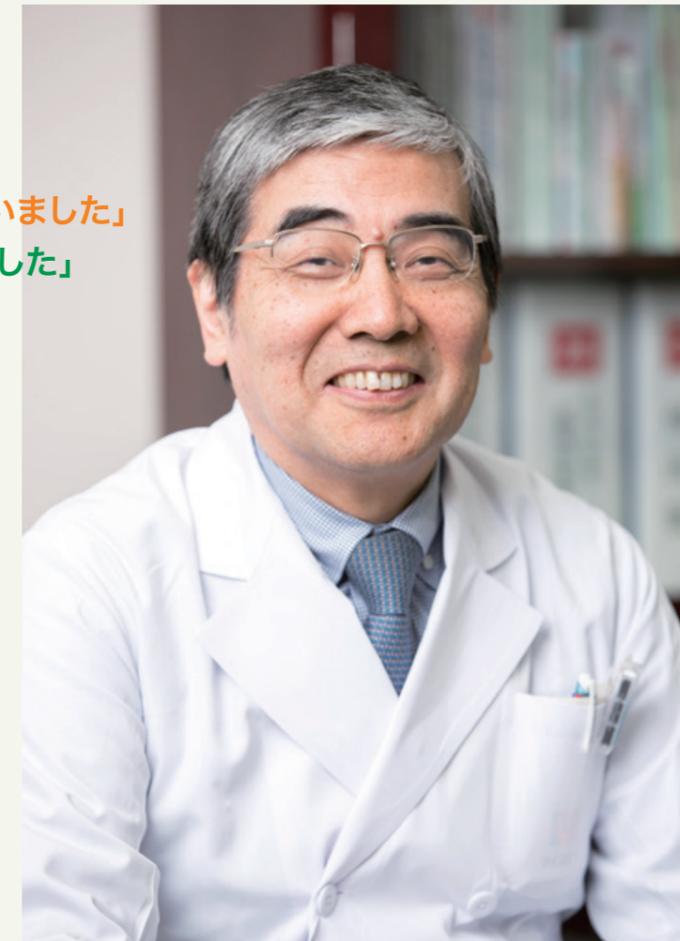
大川 2年間の病院長生活の中で、木原先生は特に患者さんサービスに力を注がれていたと思います。診察・検査・会計などの待ち時間の短縮や、病院内で患者さんが快適に過ごせるような取り組みを実現され、病院の雰囲気が明るく、やさしくなりました。ありがとうございました。

木原 病院長時代は、第1に患者さんサービスの充実、第2に病院経営、第3に各診療科・部署での働きやすい環境づくりという3つの課題について、病院長としてどう対応すべきか常に考えていました。大川病院長にバトンタッチできて、肩の荷が下りました。これからは病院長時代の経験を活かして、この病院のために貢献できることをコツコツと行っていこうと思っています。

大川 よろしくお願いたします。木原先生はどのようにして患者さんサービスの取り組みをスタートされましたか？

木原 まず患者さんのご意見に全て目を通すことから始めました。苦情から感謝の言葉まで、お手紙、FAX、メール、窓口のスタッフからのレポートなどで病院長のところに届く患者さんからのご意見を、ひとつひとつ丁寧に読むことで、病院の中で働いているだけではわからないことが見えてきました。

大川 患者さんの目線で病院を改めて観察することで、患者さんが求めているものが発見できるんですね。そこから待ち時間の短縮や、待合スペースの温度管理などを改善され



木原和徳
泌尿器科・前病院長
(平成26年4月～平成28年3月)
Kazunori Kihara

木原
前病院長

木原 「苦情からお礼まで患者さんの意見に目を通しました」

大川 「病院を改善するヒントは患者さんの意見にあったのですね」



DIRECTOR Director 病院長対談

木原 「みんなで良い病院に育てようという気持ちが大切ですね」

大川 「本院のNO1をアピールすることで、自信とプライドを育てます」

たわけですね。私もぜひ、患者さんのご意見を大切に拝見し、そこから病院長として患者さんに向き合っていくと思えます。

木原 この病院の「強み」は、患者さんが「この病院をもっと良い病院に育ててあげよう!」という温かい意識をお持ちだということです。

大川 確かに私も整形外科で診療をしていると、「医病ファン」になって、ご家族やご友人に「いい病院ですよ」と口コミで紹介して下さる方がとても多いことをうれしく感じますし、それと同時に、患者さんのご期待に沿えるようにがんばろうという気持ちがかかりますね。実際に患者として受診した印象が良かったから人に勧めてくださるわけですから、コツコツと真摯に医療サービスを続けてきた本院の財産でもありますね。

木原 病院長時代にスタートした患者さんへのサービス向上のための「梅いち輪募金」にも、たくさんの患者さんにご賛同いただき、大切に活用させていただきました。患者さんと一緒になっていい病院を築いていくという姿勢は、地道にまじめに、そして分け隔てなく、誰もが安心して高度な医療を受けることができる本院ならではの魅力だと思います。

大川 とにかくまじめで堅実、そして腕のいい心の温かいスタッフが多数いることが、本院の素晴らしいところだと思います。その証として、救急患者の受け入れ総数が全国第1位、研修医の希望者数が全国の臨床研修病院の中で第1位、そして紹介状を持参の初診患者数が、全国の国立大学の中で第1位という実績があります。

木原 つまり患者さんだけでなく、若い医師やベテラン医師など、プロからも高い信頼を集める病院だということですね。ただスタッフたちが皆まじめで控え目なので、「うちの病院はNO1ですよ!」と宣伝するのが苦手ですよ。ちょっと

もったいない気がします。

大川 私もそう思います。もっと自信を持って、ハイグレードな治療を提供する実力がある病院だということをストレートに表現することで、さらにスタッフのやる気とプライドを引き出していきたいです。

木原 直球勝負の大川先生らしいご意見が伺えましたね(笑)。変化球コントロール型の私と、タイプの違う二人のピッチャーの交代起用で、いい結果がでそうですね(笑)。

大川 肩を壊さないように、早起きしてよく歩いて、よく働こうと思います。病院長になり整形外科医として手術を行う時間なども減ってしまっていますが、十分にカンファレンスを行い、患者さんに安全な医療を提供し、次世代の人材育成にも引き続き取り組みます。

木原 大川先生が積極的に改善して行こうと考えている患者さんサービスはどんなことでしょうか?

大川 入退院センターを設置して、入退院時の諸手続きなどを一元的に専門スタッフが提供することで、患者さんがよりスムーズに入退院できるように準備しています。また「長寿・健康人生推進センター」がスタートしましたが、このセンターを中心に、手術や負担の大きな治療を受けるまで病気が深刻になる前に、ゲノム診断や各種検査を行い、リスクの高い病気を予防するための先制的な医療を提供して、健康寿命の延伸に貢献できるよう、病院全体で取り組んでいこうと考えております。

木原 ぜひ頑張ってください。私の院長としての最後の仕事ともいえる、本院の魅力についてまとめた書籍も、この夏に講談社から出版されますので、ストレート直球勝負の大川院長が自らこの本を携えて本院の素晴らしさを、是非いろいろところでアピールしてください。

大川 「入退院がよりスムーズになるように改善します」

木原 「本院の魅力をまとめた本を活用してください」

News!

患者さんを24時間、365日体制で受け入れる脳卒中センターを設立しました

東京医科歯科大学医学部附属病院は、平成28年1月より、「脳卒中センター」を専門外来として設立しました。

「脳卒中」は、寝たきりになる原因の第1位、死因はがん、心臓病に次いで第3位で、毎年約25万人が新たに脳卒中を発症しています。

脳卒中には大きく分けて、脳の血管が詰まり、その先の脳が壊死する「脳梗塞」、脳の血管が切れ、出血が脳を圧迫する「脳出血」、脳を包む「くも膜」が出血し脳を圧迫する「くも膜下出血」の3種類があります。

脳卒中はある日突然、前兆とともに発症することが多く、なるべく早く前兆に気づき、病院で適切な治療を受けることが、命を守り、後遺症を残さないための重要なポイントです。

そのため、当院では「脳卒中センター」を設立。救急科、神経内科、



脳卒中センターメンバーによる「ストロークカンファレンス」の様子

脳神経外科、血管内治療科で構成され、これらの専門医が治療チームを形成し、脳卒中発症後24時間以内の急性期脳卒中の患者さんを24時間365日体制で受け入れます。

脳卒中センターの特徴

◆救急科、神経内科、脳神経外科、血管内治療科で構成されています。これらの専門医が合同治療チームを形成し、ひとつのチームとなって治療にあたります。

◆個々の患者さんの病状に応じ、有効かつ侵襲の少ない方法で高度な急性期治療を行います。内科治療・開頭手術・血管内手術・内視鏡手術など、各科のエキスパートがそれぞれの豊富な経験と高度な技術を集約して治療を行います。

◆手術部、麻酔科、放射線科、リハビリテーション部、医療福祉支援室などの関連部門と緊密に連携し、急性期から回復期まで、滞ることなく脳卒中の専門治療を行います。

Point

脳卒中の4つの特徴的な前兆

急に顔、言葉、動作、目の異常があったら脳卒中かも?!

脳卒中の4つの特徴的な前兆についてご紹介しますので、皆さんもしっかり覚えておいてください。

顔!



◆顔半分のゆがみや片方の手や足のしびれやマヒなど

言葉!



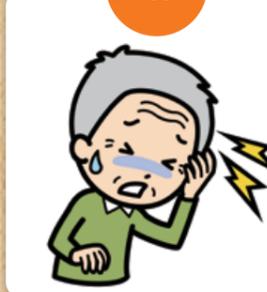
◆言葉が出ない、ろれつがまわらない、舌がもつれる

目!



◆片方の目が見えない、ものが二つに見える、視野の半分が欠ける

動作!



◆立てない、歩けない、ふらつく

もしご家族やまわりの方で、上のような症状に気がいたら、当院救命救急センターへ直接お問い合わせの上、救急車で搬送して下さい。詳細は、ホームページをご覧ください。

当院救命救急センターTEL: 03-5803-5102
ホームページ「医科歯科、脳卒中」で検索してください

新任科(部)長・センター長のご紹介

新たに就任した当院の副病院長・病院長補佐・診療科長・診療部長・センター長から患者さんへのメッセージが届きました。

副病院長



内田 信一 副病院長 *Shinichi Uchida*・腎臓内科

安心・安全という医療の基本を支える倫理観と使命感を大切に

この度、医療安全・臨床研究担当の副病院長を就任することになりました腎臓内科科長の内田信一と申します。安全・安心は医療の基本であり、その中核はそれを行う人間の高い倫理観・使命感であると考えております。職員一丸となって、皆様から信頼される病院を目指してまいります。

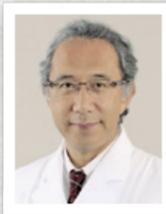


川崎 つま子 副病院長 *Tsumako Kawasaki*・看護部

患者さんの声を生かし医療サービスの向上と環境整備に尽力します

この度、看護部門として初めて副病院長職を拝命いたしました。私に与えられた役割は、「サービス・環境整備」です。当院を利用して頂く患者さんやご家族の視点に立って、医療サービスの向上と環境整備に、皆様からの貴重なご意見を頂きながら取り組んでいきたいと考えております。

病院長補佐



荒井 裕国 病院長補佐 *Hirokuni Arai*・心臓血管外科、MEセンター

急性期医療のさらなる拡充に向けて病院長を補佐します

昭和57年卒で、大川病院長と同期です。心臓血管外科医として、外科、循環器、ICU、ERなど本院の急性期医療に深く関わってきました。近年は、MEセンター長も務めております。本院の原動力となる急性期医療の拡充に向けて病院長を補佐してまいります。



高橋 弘充 病院長補佐 *Hiromitsu Takahashi*・薬剤部

更なるチーム医療の充実をめざして

複雑化する先進医療のなかで、安全で安心な診療体制を提供するためには、チーム医療の充実は不可欠です。医薬品の適正使用と安全管理を中心に全職員の力を結集し、チーム医療の充実を図ることで、病院長の補佐をしてまいります。

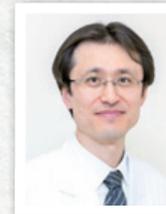


伏見 清秀 病院長補佐 *Kiyohide Fushimi*・クオリティ・マネジメント・センター

国際的にも評価される医療サービスの提供を使命とします

このたび、医療国際化とクオリティ・マネジメント担当の病院長補佐に就任しました。欧米の第一線病院等と並ぶ国際的に評価される質の高い医療を提供していくことが当院の使命と考えています。そのために、医療ビッグデータの分析による質保証とPDCA活動を推進していきます。

病院長補佐



吉村 亮一 病院長補佐 *Ryoichi Yoshimura*・放射線治療科、放射線部

いかなる状況でも事業継続可能なシステム形成をサポートします

自然災害などの緊急事態時にも、患者さんの安全と医療行為の継続、あるいは早期復旧を可能とするために、平常時から各診療科、メディカルスタッフとの連携を緊密にすることで病院長を補佐し円滑な病院運営を目指します。

新任部科長



森尾 友宏 センター長 *Tomohiro Morio*・周産期母子医療センター

周産期医療のエキスパートがハイレベルな医療を提供します

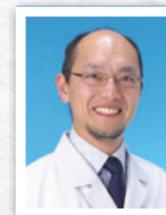
産科医、小児科医、助産師、看護師、臨床心理士、臨床遺伝専門医などがチームを組み、手術部・麻酔科の協力でハイレベルな周産期医療を実践します。正常妊娠・分娩はもとより合併症妊娠や異常分娩、早産児分娩や、早産児・病的新生児に対し、質の高い管理・治療を行います。



朝蔭 孝宏 センター長 *Takahiro Asakage*・頭頸部・頭蓋底腫瘍先端治療センター

質の高い日常生活を重視した集学的医療を提供します

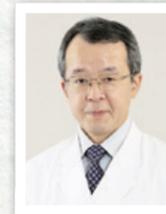
当センターでは耳鼻咽喉科領域の癌を対象に、頭頸部外科、耳鼻咽喉科、形成外科、脳神経外科、消化器外科、放射線科などが、力を結集して、患者さん一人一人に合わせた、治療後も質の高い日常生活を送れることを重視した、最良の医療を提供することを心掛けています。



岡本 健太郎 診療科長 *Kentaro Okamoto*・小児外科

小児外科、久しぶりの再開です!

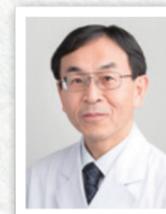
新生児・小児の外科的疾患に対し専門医が責任を持って保存的・手術的治療を行います。大都会の中でも町医者的心を持ち、患者さんに最適な治療を選択します。手術の際は整容性に充分配慮した低侵襲治療を心がけています。また、小児科とのスムーズな連携で包括的な治療を行います。



尾林 聡 室長 *Satoshi Obayashi*・臨床研究監視室

臨床研究の適切な進捗を監査しています

本学は国家戦略特区において、保険外併用療養拡充の特例機関として認定されました。当監視室は平成27年8月に設置され先進医療の実施や臨床研究中核病院(医療法)を目指し、臨床研究審査委員会の進捗状況や安全管理状況、有害事象発生有無の監視などを行っています。



東田 修二 部長 *Shuji Tohda*・検査部

迅速で質の高い検査を提供して高度な医療に貢献します

各診療科の高度な診療を、迅速で質の高い臨床検査を通じて下支えします。当検査部は臨床検査の国際規格であるISO 15189の認定を受けており、検査の質が世界水準にあることが保証されています。検査に関する教育や情報提供、新たな検査法の開発にも取り組んでいます。



奨学寄附金のお祝い

東京医科歯科大学ではさまざまな病気に対する治療法や治療薬の開発に結び付く研究や、患者さんに信頼される医療人となるための教育を行っています。奨学寄附金は東京医科歯科大学が行っている人材育成や研究活動に対してのご寄附を企業や個人の皆様から募っております。特定の診療科や医師を指定して寄附することも可能で、金額も決まっておりません。寄附金は税制上の優遇措置が講じられます。詳しいことは下記にお問い合わせください。

■ お問い合わせ先

研究・産学連携推進機構事務部 連携総務係
TEL：03-5803-4012
FAX：03-5803-0179



東京医科歯科大学基金のお祝い

東京医科歯科大学基金は、皆様のご支援により、世界中で活躍する医療人を育み、知と癒しの匠を創造するために、国際交流事業、学生育成奨学事業などの「基金事業」に活用されます。ご寄附は一口1万円で本学で用意した振込用紙にて振り込むことができます。また、税制上の優遇措置が講じられます。詳しいことは下記にお問い合わせください。

■ お問い合わせ先

東京医科歯科大学募金室
TEL：03-5803-5009
E-MAIL：kikin.adm@tmd.ac.jp



セカンドオピニオン外来とは

セカンドオピニオン外来は、当院以外の主治医にかかられている患者さんを対象に、診断内容や治療法に関して、意見・判断を提供し、今後の治療の参考にしていただくことを目的としています。ご希望の方は、まず現在の主治医と相談の上、セカンドオピニオン外来にお申し込みください。

なお、当院での診療内容に関して、他院でのセカンドオピニオンを希望される方は、担当医にお申し出ください。必要な診療情報提供書や資料をご用意いたします。

■ お問い合わせ先

医療連携支援センター セカンドオピニオン外来
TEL：03-5803-4568
FAX：03-5803-0119



献体のご紹介

献体とは、医学・歯学の大学における解剖学の教育・研究に役立たせるため、自分の遺体を無条件・無報酬で提供することをいいます。自分の死後、遺体を医学・歯学のために役立てたいと志した方は、まず最初に生前から献体したい大学や団体に名前を登録しておく必要があります。献体に関するお問い合わせは、下記をお願いいたします。

■ お問い合わせ先

東京医科歯科大学献体の会事務局
TEL：03-5803-5147



梅いち輪募金にご協力ください

梅いち輪募金（東京医科歯科大学医学部附属病院支援基金）は、患者さんから寄せられるサービス改善のご要望を、できることから実現するために活用させていただく基金です。一口1000円からお申込みいただけます。詳しいことは下記までご連絡ください。

■ お問い合わせ先

東京医科歯科大学医学部附属病院 総務課
TEL：03-5803-5097
メール：syomu2.adm@tmd.ac.jp



がんレクチャー

「がん」に関する情報を、がん医療に携わる専門スタッフがテーマに基づいてお話しします。ともに学び、ともに考える時間をぜひ一緒に過ごしませんか。事前申し込みは不要。参加費は無料です。

(連絡先/腫瘍センター TEL：03-5803-4886)

日時	奇数月 第2火曜日 13：30～14：30（開場 13：15）
場所	B棟5階 症例検討室
内容	7月12日 がんの化学療法と副作用対策 9月13日 臨床試験を知ろう 11月8日 がんと栄養 1月10日 がんと遺伝 3月14日 がんと社会制度（お金・仕事・制度）